

熊野路 新宮へ

例によって思いつくまま鳥羽、新宮へ旅発つことにした。旅の動機と言えるようなものではないが、「にっぽん列島鉄道紀行」(全30巻・JTBパブリッシング発行)の「紀勢本線」がついこの前発売された。くわえて関口知弘(関口宏、西田佐知子夫妻の長男とか)出演の日本列島鉄道縦断の旅、ヨーロッパ鉄道の旅、最近では中国鉄道の旅にもっとも触発されている。

私が最初に新宮へ行ったのは昭和37年高校2年の夏休み中だった。紀勢本線は昭和34年に全通しているのでまだ間もないころである。名古屋から夜行の急行列車に乗車したのではなかったかと、おぼろげながら思い出す。



【特急ワイドビュー南紀で熊野川を渡る】

しかし妙に、近くの座席に強烈な名古屋弁で話す女性たちがいたことは、はっきりと思い出す。このことは女性たちが云々ではなく、名古屋弁によるところが大きい。おもしろえーでかんわ、やっぱり。そんなことよりも紀勢本線の旅で最も感動的な車窓風景がよみがえる。本線で伊勢路を辿ると和気で参宮線を分け(ダジャレではない)、一転、沿線は山間を抜けるローカル風情になる。長くて急勾配の荷阪峠トンネルを抜けると突然右手が大きく開け、眼下の紀伊長島の街並み越しに熊野灘の海明かりが劇的に広がる。

熊野というのは大小無数の山塊を寄せ固めたようなところで、いかにも隠国(こもりく)という感が深い。また熊野は黄泉(よみ)の国であるとか、死者の国であるとかいわれているが、熊野の元の意味は「隈」、つまり奥まったところという。この大山塊の南のはしが黒潮に落ちるところに、紀州新宮がある。

ところで、熊野人には黒潮の影響があることは確かであろうと、つねづね思っている。日本では黒潮は沖縄から薩摩の海岸をあらい、土佐をながれ、熊野海岸を奔って、やがて沖へ去ってゆく。この経路にある三つの地帯はあるいは同祖かもしれない、むしろその気質の共通の多さからみて一つ



【新宮城本丸跡からの熊野山塊】

民族であると断定したほうが面白いかもしれない。三地帯とも史上における共通性は剽悍で、進取の気性に富み、新しものずきであり、なによりも革命に縁がある。共通しているのはそれだけではなく、血液型は日本の他の地方よりもこの三地帯にはずばぬけてO型が多

いそうである。戦前は、沖縄の糸満の漁夫がクリ船をあやつって薩摩、土佐をへて熊野沖まできていたという。黒潮にさえ乗ればやって来られるわけだが、そういう経路をつたって古代海洋民族がこの三地帯に同じ血液をのこしつづけたと想像するのはどうであろう。新宮城址の天守台で熊野の山々を眺めていると、ついこんなとりとめのないことを夢想してしまう。いまひとつ新宮という町の面白さは、この町が近畿地方の最南端にあるにもかかわらず、京大阪と縁が薄く、むしろ江戸・東京に縁が深い、ということである。この町は紀州徳川家の付家老水野氏三万五千石の城下町だが、江戸時代は熊野炭(備長炭)といわれる木炭が主要産物のひとつであり、これだけは藩の専売品になっていた。この木炭の販路は江戸時代から最近まで東京が主で生産高の八割を占め、あとの二割が大阪に出されるにすぎなかった。新宮城址の水の手口には、いまもその積み出し港の遺稿がのこっている。

ついでながら備長炭の材料はウバメガシで、紀州の山々はこのウバメガシでおおわれた照葉樹林なのである。もっとも最近では金沢でも生垣に使う向きも多くなったが。備長炭のウンチクは次号へ…



【新宮城址の備長炭積み出し港跡】

by 市村 銑治



2007/06
(株)アスリック
http://www.neting.or.jp/usric

〒920-1166
石川県金沢市上若松町23番地

電話 076-233-7217
Fax 076-233-7375
Email usric@neting.or.jp

水無月



by shio

寄稿文を依頼され、うかうかと請け負ったものの、いざ書こうとするとナニについて書けばよいのやらコシがなかなか難しい。ああ困ったなあとか言いながらぐずぐずしている、あっさり×切を過ぎてしまった。ああ困ったなあ。などと文字数を稼いでみても始まらないので、ちょっと昔のハナシなど。

学生時代、よく飛行場に飛行機を眺めに行っていた。空港の送迎デッキなどではなく、敷地境界のフェンス越しにアタマの上を飛行機が飛び去るのを飽きもせず眺めていた。当時の私は「美しいとはどういうことだ」などという、考えても始まらないことを、ジトジトジトジト思いあぐねる根暗な美術大学の学生で、一体ナニが美しくナニが醜いのだ。イヤ、そもそも美しい、醜い、とはどういうことだ。今思うと本当にバカバカしいのだけど、本気でそんなことを考ながら、貴重な日々を垂れ流していた。そんなある日、たまたま行った飛行場で見たのが、航空自衛隊の戦闘機。轟音と共に飛び去るその姿に度肝を抜かれた。私の中からアタマの上を派手に旋回していく機体は、全く破綻のない美しい姿を見せつけて青空に消えていく。何だこれは。学校に山と積まれた具にもつかない「美術品」など、足下にも及ばない。圧



倒的な美しさに完全に魅了された私は、短絡思想的に戦闘機のことを調べ始めた。戦闘機とは何か、それは血も涙もない冷徹な思想に基づいてデザインされた、戦争の道具である。そんな忌々しい道具が、なぜあんなにも美しいのか……。

そして私は「美」について考えることをやめた。今ではこんな小癪なことを考えるでもなく、また、飛行場に通うでもなく、日々の仕事に追われる生活を送っている。ただ、あのとき感じ、そして考えたことは今でも自分の中に深く根付いていて、自分自身を保つ支えのひとつとなっている。

まあ、世間一般的には単なるミリタリーオタクとして、片づけられてしまっているのだけれども。



【プロフィール】

イシグロ マサフミ

昭和51年生まれ 富山県出身

金沢美術工芸大学大学院

美術工芸研究所 修了

平成16年より

株式会社 東洋設計に勤務

濱のつばき 『試練のつばき』

人気役者の梅沢富夫。40℃の熱が出たとき、休みたいといったら、「舞台上倒れたら、病院に連れて行ってやる」と座長である妹に言われたという。

派手な化粧とユニークな言動のテーマン小暮閣下。ある時、ステージに飛び降りて登場した瞬間。脚を骨折。しかし、そのまま激痛を堪え、スピークに腰掛けて2時間近いライブを熱唱し通したという。

プロの覚悟である。

試練のときは、必ずしも客観的に厳しい形態を取るとは限らないことがある。

傍から見ると羨望の限りである大抜擢。周囲の期待が大きいくだけに、外れた失望も大きい。期待をはずしはしまいか、皆目見当がつかない。これこそ、最大の試練であるともいえる。厳しい状況なのか、羨望の形態を取るのか状況は全く逆であっても、本質的には共に試練である。

ならば、人生は試練に粉塗されている。楽は、楽するためにあらず。楽に隠された真の試練に気づかねばならない。

古人に曰く「楽しんで、楽知らず」。目先の快樂ばかりを追い求めている者は、逆に真の楽を知らない。けだし名言である。

「死ぬ瞬間」などの著書で世界的に有名な精神科医だったE. キューブラ・ロス。彼女によると、人は与えられた試験にパスするために生まれてきたとい

う。(死に行く人を励まし、愛の言葉で力づけてきた功績で、聖人とも呼ばれていた彼女は、晩年脳梗塞に倒れ、何もできずにいる自分など一銭の価値もない、と豹変したという。河合隼雄「平成おとぎ話」)

一生の使命：天命を理解した人は幸いである。なすべきことを知っている。行つのみである。知らぬ人は、知ること自身が試練となる。なすべきことが判らねば、迷うばかりではないか。

仏教のいう決定(けつじよつ)、孔子の不惑は、このようなことか。あるいは違ふのか。老子の世界は、また異なる。人間の理解の幅のなんと広いことか。いずれの哲人の言も永く人々に心を寄せられている。

われわれが携わる地域計画を始めとする諸計画の賞味期限はいか程であるか。千年どころか百年。せめて数十年。ともすると、立てたそばから期限切れを迎えているかもしれない。この差は、何に起因するのか。単なる「縁」で済まされない何かがあると感ずるのは、穿ち過ぎか。

眼にする光景は初夏の緑に溢れ、平和そのものである。しかし時代の激動ぶりは目に見えぬ。世が激動しているからこそ、次代の標(しるべ)が求められている。標を作るのも人。それをつなぐのも人。

新しき標を生み出す場面に立ち会うことができるならば、無上の喜びである。それは同時に時代からの試練となるかも知れぬ。これも含めて引き受けるのが「プロの覚悟」になりはしまいか。

昨年11月、山形市で開かれた地方シンクタンク協議会研究発表会に5年ぶりに参加する機会に恵まれたが、参加団体も少なく改めて地方シンクタンクを巡る情勢の厳しさを感じた。東北・関東ブロックに限ってみると、最盛期には17団体加盟していたが自治体系、地銀系のシンクタンクの脱退が相次ぎ現在10団体となった。その一つであるが、この3月に仙台都市総合研究機構(SURF)が解散により脱退した。

SURFは、1995年3月に仙台の新しい都市づくりのビジョンや政策目標を多角的に提示していくとともに、市民と行政の接点として機能を果たしていくことを目指し設立された。事業としては、自主研究、市民研究員制度、シンポジウム・セミナー、仙台のまちづくりに関するライブラリー、そして東北都市学会事務局も務めていた。独立系シンクタンクで受託研究に明け暮れていた私からすれば、事業内容はもちろんのこと、仙台駅前の快適なビルというオフィス環境など羨ましい限りであった。特に市民研究員制度は、公募によって選ばれた市民が仙台市職員、SURF研究員とともに政策研究に対する関心を深め参画していくものであり、ユニークなものであったし、シンクタンクは「人間交差点」だということを実証していた。

ただ組織という面では、このような自治体系シンクタンクに共通することであるが、研究部長は外部の金融機関から、研究員は仙台市からの出向という形であり、ほぼ3年で人が入れ替わるという問題である。シンクタンクの顔は、現場の研究スタッフであることをこの手の組織には認識して欲しいと感じる。

解散は昨今の諸情勢や内部事情などによる決定であると思うが、政令指定都市、東北の中心都市としてこういった機能を果たすシンクタンクが消えたことは、新しい形のシンクタンクとして期待していただけに非常に残念である。

著者ご本人のご希望により、インターネット版ではご覧いただけません。

相続について⑤

遺言状の必要性

皆さんは、ご自身の遺言状のことを考えられたことがあるでしょうか。「我が家にはそんな大きな財産はないからね」ということをしばしばお聞きします。

では本当にそうなのかというと、ケースによっては無かったが故の悲劇ということも実際ありました。今回はそんなケースをご紹介します。遺言状の大切さを考えていきましょう。

Case Study

田中さん(仮名)のご主人は、5人兄弟姉妹の長男でした。田中さん夫妻には子どもはなく、夫婦仲はとてもよく、会社も早期退職制度に応じ、終の棲家としてある地方都市に念願のマイホームを手に入れました。

その資金としては、早期割増退職金と預金をあてて、一切住宅ローンを使いませんでした。

ところが、そんなある日、田中さんのご主人はくも膜下出血により急逝してしまったのです。それと同時に、ご主人の兄弟姉妹から遺産相続の申し立てがなされました。

相続財産は、今の宅地と住宅で、預貯金や有価証券類はほとんどありません。このままでは家を売らなければ財産分与ができませんが、田中さんはご主人との思い出の家を売りにくかったのです。

Answer

このケースでは、財産のすべてを妻に相続させるという遺言状があれば問題はありませんでした。田中さんの相続配分は子どもの無い夫婦なので

配偶者 3/4

姉 1/4 × 1/3 妹 1/4 × 1/3 弟 1/4 × 1/3

(親が死亡している場合に限る)

になります。

しかし、兄弟姉妹には遺留分がありません。ということば、前記のように遺言状を残してあれば兄弟姉妹には一切財産を渡す必要がなくなるわけです。であれば、思いで深い住宅を売って、現金を用意する必要も無かったわけです。このように万一のとき、残されるご家族が辛い思いをしなくてすむように、遺言状を準備しておきたいものです。

TAKI no TAWAGOTO

【今年はセーリングカヌーがブレイクの予感？】

5年前にこのコラムで紹介した「アクアミュージズ」という名のセーリングカヌーが福井の若狭地域で流行っているみたいです。

セーリングカヌーというのは、カナディアンカヌー（覆いのないタイプのカヌー）に帆を付けて、ヨットの様に風で進めるようにしたカヌーのことです。特にこの「アクアミュージズ」というセーリングカヌーは船体の重さが約25kg、長さが4mくらいで、一人で車に乗せて運べる言わば「どこでも帆かけ舟」が実現できる優れたものなんです。価格はフル装備で約30万円弱。私も6年前にこの舟を買ってからというもの、能登半島へイルカを見に行ったり、近くの河北潟に浮かべたり、五箇山にあるダム湖でセーリングしたり、近所の津幡川のゴミ掃除の運搬等と、海や山で結構楽しみました。しかし同じ舟を北陸で見かけることはほとんどありませんでした。



【セーリングカヌー】

そんなユニークでマイナーな存在だったこの「どこでも帆かけ舟」なのですが、3年前に海洋冒険家の今給黎教子さんが九州の宮崎県から北海道室蘭まで2年がかりで『帆掛け舟日本縦断』を達成したことで一躍世間の注目が集まりました。元々、この「アクアミュージズ」という舟は第一目のアメリカズカップ日本チャレンジ艇やあの堀江謙一氏のヨット設計に携わった横山晃、一郎親子の設計で、なんでも沖縄の『サバニ』という帆掛け舟を参考に造られたそうです。世界的に見ても非常にユニークな舟で、庭に置いて眺めているだけでもその流れるような船体の美しさに見とれてしまうほどです。北陸でも昨年からは福井県の若狭地域を中心に自治体等の観光誘致策とも相まってかなり盛んになってきました。また、石川・富山県でも少しずつオーナーが増えてきているようです。定員は2.5人で親子セーリングやカップルでのセーリングも可能です。また、少し慣れれば、キャンプ道具を積んで、無人島や海岸づたいの一泊ツーリング等も可能です。



今年の夏はセーリングカヌーを車に積み込んで「どこでも帆かけ舟」旅行なんてどうですか？

明日裡空塾 77

第五十四章（以身觀身）

善建者不拔、善抱者不脱。子孫以祭祀不輟。脩之於身、其德乃眞。脩之於家、其德乃餘。脩之於郷、其德乃長。脩之於邦、其德乃豊。脩之於天下、其德乃普。故以身觀身、以家觀家、以郷觀郷、以國觀國、以天下觀天下。吾何以知天下然哉。以此。

老子を少し言い換えると「国の品格を見て、国を判断する」となります。

最近「赤ちゃんポスト」が設置され、親学なる言葉と指針が発表されました。

第18章に「道が衰えると、仁義の教義が声高になる。知識や賢さが言い立てられたとき、大いなる偽善が目覚めてきた。親族間が仲よく暮らせないとき、“慈愛の親”や“孝行息子”が喧伝されてきた。」と書かれていました。

「親になる心構えが整わない親が増えている現状を嘆いて親学を示さなければならなくなった国の品格」をプランナーとしてどう考えなければならいのでしょうか。

国としての品格が高ければ、国民がその伝統を守ろうとすることで、国の品格は維持されることになりま

す。しかし、この維持の方法として毎年2ケタ増えている法律の制定や

「How to」である指針として示すことが根本修復の効果を発揮するとは到底思えません。むしろ、国としての品格が失われてしまったと考え、抜本的な回復を図らなければいけないでしょう。

若者言葉は、物事を明確にせず、確認しながら進めていく意識の現れであるとされ、自我の確立が遅れているとも言われています。これに対し、日本人の美德である「物事を明確にしない」というのは、この若者言葉とは全く異なります。それは「相手を慮る意識」を基盤に不明瞭な言葉となって現れるわけです。前者

は弱さ、後者は強さが背後にあります。

ここで話題をもとに戻します。

少子化対策としての「赤ちゃんポスト」「親学」は、言語表現の是非を除けば、短期的に「子」の生命、精神を維持するためには必要な措置であると思います。

しかし、長期的には「親」になることのできない親、「親」としての成長をみない「親」が増加することになる危険性があります。

給食費を払わなくても子には給食が出されるわけだから、払わない方が得。これを拡大解釈すれば、自分が育てなくても、国が育てるのだから、育てない方が得。

ハウ・トゥーの「親学」ではなく、親になっていく「親力」、「精神力」を子供の頃から身に付けさせる、それこそ表向きの鈍感力、痛みを止めておく我慢力を育てていく環境づくり、コミュニ

ティづくりが必要なのでしょう。

高齢者と積極的に子供たち・親たちを交流させるしくみを作ること、「地域猫」という野良猫を地域住民みんなで育てる活動組織がこれのヒントになるかもしれません。

ただ、言い換えれば、これは新たな活動、仕組みを創造することではなく、日本のどこにでもあった地域の力を思い出すことであると思います。

by shio

